別記様式第４号

2019 年度 独創的研究助成費 実績報告書

２０２０年　３月２７日

<table>
<tr><td>報　告　者</td><td>学科名</td><td colspan="2">造形デザイン学科</td><td>職 名</td><td>准教授</td><td>氏 名</td><td>南川　茂樹</td></tr>
<tr><td>研 究 課 題</td><td colspan="7">素材としての間伐材を活かした身体感覚に訴える造形デザインの研究</td></tr>
<tr><td rowspan="3">研 究 組 織</td><td colspan="2">氏　　名</td><td colspan="2">所 属 ・ 職</td><td>専 門 分 野</td><td colspan="2">役　割　分　担</td></tr>
<tr><td>代表</td><td>南川茂樹</td><td colspan="2">デザイン学部・准教授</td><td>造形デザイン</td><td colspan="2">素材研究・構造研究・デザイン全般</td></tr>
<tr><td>分担者</td><td></td><td colspan="2"></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>研究実績の概要</td><td colspan="7">昨年度の研究成果の間伐材の歩留まりを考慮した板材の螺旋積層構造で出来上がった新しいペットハウスから、その構造を活かした新たなプロダクトを提案した。同じく板材を螺旋状に積層する構造で、その特性を活かしつつ別の機能に展開した。
先の研究では、内部空間に用途を設けたが、板材の厚さを 20㎜ と厚くすることで、上部からの重量に耐える構造とし、また全高を 420㎜ とし、座る機能を課した。またこの構造は、理論上いくらでも長くすることができるため、積層枚数を増やして全長 5m 程の長さにした。結果、座ることのできるベンチ状の作品となった。この作品の特徴は、通常のベンチとは違って、設置場所によってさまざまに変形可能で、フレキシブルに対応できる。また複数作ることによって、そのレイアウトは無限で、用途や演出にさまざまに対応できるものとなった。
また、出品した展覧会は、五感としての身体感覚をフルに使って美術を体験することがテーマであるため、このベンチ状の作品に足りない感覚を補うための作品を加えた。ベンチ状の作品は、ヒノキが材料であるため、香りの嗅覚、肌理の触覚、構造美の視覚が備わっている。造形作品に味覚を付加するのは困難なため、残す聴覚を補うべく、楽器を取り込む作品を制作した。幸い美術館にはコンサートホールがあるため、グランドピアノを所有していた。そこでこのグランドピアノを取り囲むような木材の造形物を制作した。素材は同じくヒノキの間伐材で、構造は蛇腹の積層構造とした。これは、ベンチ状の作品とリンクしており、構造自体が伸び縮みするようになっている。また、側面からの形状は、グランドピアノの形状とリンクさせ、開口部からなだらかに収束した形状になっている。
会期中、作品とコラボレーションしたピアノ、チェロ、ギターのコンサートを 2 回行った。コンサートの時は、ベンチ状の作品を観客席のように配し、その機能に対応した。
また会期終了後、ベンチ状の作品を高梁市図書館に設置する機会に恵まれ、読書をする際のベンチとしても展開できた。</td></tr>
</table>

※ 次ページに続く

研究実績 の概要	展覧会発表 「目の目 手の目 心の目 Part2」展 2019年8月9日～9月15日 岡山県立美術館 2019年10月4日～ 高梁市図書館